

Terence

テレンス・コンラン モダン・ブリテンをデザインする

Conran:



2024
10/12
2025
1/5

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY



Making Modern Britain

Press Release

プレスリリース 2024年7月9日



*2

サー・テレンス・オルビー・コンラン

Sir Terence Orby Conran 1931-2020

ロンドン南西部サリー州イーシャーに生まれる。セントラル・スクール・オブ・アーツ・アンド・クラフツ（現セントラル・セント・マーチンズ）でバウハウスやアーツ・アンド・クラフツに影響を受け、ブリティッシュ・ポップアートの旗手エドゥアルド・パオロツツィにテキスタイル・デザインを学ぶ。テキスタイル、食器、家具のデザインを手がけるうち起業に目覚め、ライフスタイルショップ「ハビタ」や「ザ・コンランショップ」の経営で成功を収めた。その他、レストラン事業や出版業、都市開発まで多才を発揮。デザイン奨励と社会貢献を目的に1989年、世界初のデザイン・ミュージアムを設立。デザイン分野での功績と文化事業が評価され、1983年に英国王室より騎士(Knight Bachelor)に叙勲、サー(Sir)の敬称を許された。2020年、自邸バートン・コートで88年の生涯を閉じる。西新宿の「ザ・コンランショップ」日本初出店から今年で30年を迎える。

展覧会概要

Exhibition Overview

「Plain, Simple, Useful (無駄なくシンプルで機能的)」なデザインが生活の質を向上させると信じ、個人の生活空間から都市、社会までを広く視野に入れ、デザインによる変革に突き進んだサー・テレンス・コンラン(1931-2020)。本展は、イギリスの生活文化に大きな変化をもたらし、デザインブームの火付け役にもなったコンランの人物像に迫る日本で初めての展覧会です。

戦後まもなくテキスタイルや食器のパターン・デザイナーとして活動を始めたコンランは、1960年代、ホームスタイリングを提案する画期的なショップ「ハビタ」をチェーン化して成功を収め、起業家としての手腕を発揮します。そして、1970年代から展開した「ザ・コンランショップ」におけるセレクトショップの概念は、日本を含む世界のデザイン市場を激変させました。このほか、家具などのプロダクト開発、廃れていたロン

ドンの倉庫街を一新させた都市の再開発、書籍の出版など、関わった事業は多岐にわたります。いっぽう、1950年代からレストラン事業にも乗り出し、高級レストランからカジュアルなカフェまで50店舗以上を手がけ、モダン・ブリティッシュと称される新しい料理スタイルをイギリスの食文化に定着させました。長年あためていたデザイン・ミュージアムの設立構想を1989年、世界に先駆け実現させたことも大きな功績のひとつです。

本展は、パターン・デザインした食器やテキスタイルなどの初期プロダクト、家具デザインのためのマケット、ショップやレストランのアイテム、発想の源でもあった愛用品、著書、写真、映像など300点以上の作品や資料に加え、彼から影響を受けた人々のインタビューを交えながらさまざまなコンラン像を浮かびあがらせます。

デザインが暮らしを豊かにすること、
いつでもこれが私にとって一番大事なことだった。

**The way that design can enhance our lives
has always been of the highest importance to me.**

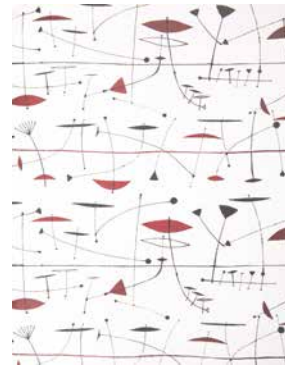
—テレンス・コンラン『マイ・ライフ・イン・デザイン』より



デザイナー、コンランのはじまり

Beginning as a Designer

第二次世界大戦後のイギリスでブリティッシュ・ポップアートが生まれた頃、コンランはその先導者エドワード・パオロツィからテキスタイル・デザインを学びました。政府による文化施策「英国祭」などが開催されたことが追い風となって斜陽だったテキスタイルをはじめとするデザイン産業が活気づくと、コンランが手がけたテキスタイルや食器のパターン・デザインが注目されるようになりました。また、家具の輸入販売に加え、鉄・木・籐を用いた椅子やキャビネットの製作販売をおこない、テイストメーカーとしての評価も得ていきます。



*3

左：コンランのパターン・デザインによるテキスタイル「モバイル」、1950年、ターゲット・ギャラリー（ロンドン）蔵 Photo: Jonathan Richrads, Courtesy of Target Gallery
右：コンランのパターン・デザインによるディナープレート「チェッカーズ」、1957年 *3

起業の志：ハビタとザ・コンランショップ

Aspiration for Business: Habitat and The Conran Shop

1960年代のロンドンは、ビートルズ、ツイッギー、マリー・クワントといったアイコンの登場とともに、音楽、アート、ファッションのジャンルで若者文化が炸裂した「スウィング・シックスティーズ」の時代でした。こうした時代の波に乗り、コンランは多岐にわたる事業を展開させます。ライフスタイルの提案をコンセプトに生活用品を扱う小売店「ハビタ」をチェーン化して大成功を収め、つづく1970年代に展開した「ザ・コンランショップ」は、今でいうセレクトショップの先駆けとして日本を含む世界のデザイン市場を大きく変えました。



*4

左：ハビタの最初のメールオーダー用カタログ、1969年、デザイン・ミュージアム/テレンス・コンラン・アーカイヴ蔵
Courtesy of the Design Museum / Image © J Sainsbury plc. Habitat is a trading name of Argos Limited in the United Kingdom. Argos Limited is a wholly owned subsidiary of J Sainsbury plc.
右：ザ・コンランショップの紙袋、1980年代、デザイン・ミュージアム/テレンス・コンラン・アーカイヴ蔵 Courtesy of the Design Museum *4

食とレストラン

Food and Restaurants

イギリスの食事情は長く衰退していましたが、新鮮な食材の入手が可能になると、コンランは1980年代後半から本格的なレストラン事業に乗り出し、高級レストランからカジュアルなカフェまでさまざまな食体験の場を提供し始めました。イタリア料理やフランス料理も意識しつつ、イギリスの伝統食材にハーブやスパイスを取り入れた「モダン・ブリティッシュ」の料理スタイルをイギリスに定着させます。コンランのこだわりは強く、レストランのコンセプトや内装はもちろん、ロゴ、メニュー、灰皿やマッチ箱などのアイテム、そしてスタッフの制服までディレクションするほどでした。



*5



上：コンランが手がけたレストラン「ブルーバード」（1997年開店） Photo: Alex Pareias, Courtesy of Conran and Partners *5
下：コンランが手がけたレストランのマッチ箱

再生プロジェクトと建築 / インテリア

Regeneration Projects and Architecture / Interior

ハビタの成功をきっかけに企業から大きなプロジェクトの依頼を多く受けるようになったコンランは、1980年、建築家フレッド・ロシェと建築設計会社を立ち上げ、斬新な発想と実行力でロンドンの街並みを一新させていきました。チェルシーの古いミシュランビルを入手し、ザ・コンランショップの大型店やレストランをオープンさせて見事に再生させます。また、当時廃れていたシャッド・テムズ地区のレンガ倉庫街だったパトラーズ・ワーフは、集合住宅、レストラン、オフィス、美術館などを含む人気エリアとして生まれ変わりました。



*6

建築とデザインを融合させたプロジェクトの数々にコンランは大きなやりがいを見出していきました。

左：改修されたミシュランビル（レストラン「ピバンダム」とザ・コンランショップ、1987年改修） *6
右：再開発されたパトラーズ・ワーフ界隈（1989年から再開発） Courtesy of Conran and Partners

バートン・コート自邸

Barton Court

1970年代後半、コンランはバークシャー州キントベリーに建つ18世紀後半の赤レンガ邸宅「バートン・コート」を自邸としました。ここで菜園や庭いじりを楽しみ、レストラン用のレシピ開発や雑誌用の撮影をすることもあれば、隣接する家具工房ベンチマークのためのスケッチに没頭することもありました。バートン・コートの仕事部屋には、クラシックとモダン、精巧と素朴、大胆さと繊細さ、自然と人工といった性質の対比物の愛用品が絶妙なバランスで置かれ、コンランのインスピレーションの源となっていました。



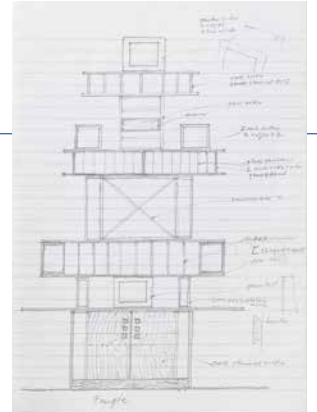
*7

左：バートン・コート自邸、2004年撮影 Photo: David Garcia *7
右：コンランの愛蔵品より、プラグッティのミニカー

ものづくり：ベンチマークとプロダクト

Manufacturing: Benchmark and Products

バートン・コートの敷地内にある家具工房ベンチマークは、1984年、シヨン・サトクリフという若者にコンランが制作の場を与えたことから始まり、約40年たった今、有名建築家や企業から注文を請け負うヨーロッパ随一の工房になりました。熟練した職人やデザイナーが専門分野をそれぞれ極めるいっぽう、多くの地元の若者に雇用の機会を与えていることも同社の特徴です。コンランは週末に描きためた家具などのスケッチを、月曜日の朝になるとここに持参し、必ず小さなマケットで試作してから実作に取りかかったといいます。家具職人を自称していたコンランにとって、まず自らの手を動かすことがものづくりの基本でした。



*8

上：コンランによるシェルフのアイデアスケッチ
下：コンランがデザインした家具の模型、ザ・コンランショップ（UK）蔵 *8

日本におけるプロジェクト

Projects in Japan

1980年代から1990年代初頭にかけてバブル経済を謳歌した日本では、ファッションを中心に華々しい消費文化が隆盛しました。建築やプロダクトデザインなどの分野で世界的評価を得る成果も生みだされました。そしてバブル崩壊の余韻が残る1994年、ザ・コンランショップは日本初上陸。これを機にコンランは日本でのプロジェクトに携わるようになります。赤坂のアークヒルズ内の「アークヒルズクラブ」内装デザインに始まり、リゾートホテル「二期倶楽部」や六本木ヒルズのレジデンス棟などを手がけます。2019年、グローブ・トロッター社から限定販売されたトラベルケースは、旅の思い出やアイデアスケッチで埋め尽くされたコンラン最晩年のデザインとなりました。



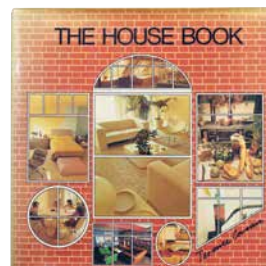
*9

左：六本木ヒルズレジデンス B/C 棟（2003年竣工） Courtesy of Mori Building Co., Ltd.
右：コンランがデザインしたトラベルケース「トラベル・ザ・ワールド」（グローブ・トロッター製）、2019年、個人蔵 *9

未来にむけて

Future for Design

住宅に関するハウツーやアイデアにあふれるコンランの著書『The House Book』は、販売数250万部以上を記録した大作本です。自ら出版社を有し、関わった書籍数は約80冊にのぼりますが、出版と同じく力を注いだのがデザイン・ミュージアムの設立構想です。1982年、コンランはヴィクトリア&アルバート美術館の一角に「ボイラーハウス・プロジェクト」を立ち上げ、ここで5年間小規模なデザイン展を開催。1989年にバトラーズ・ワーフの再開発エリアに世界初の産業デザインに関するデザイン・ミュージアムを開館させました。さらに25年後、サウスケンジントンへの移転計画を立て、面積を3倍に拡張した現在のデザイン・ミュージアムが2016年に開館。私財を投じて実現させたデザイン・ミュージアムはデザインの魅力だけでなくデザインが社会に果たす役割や意義を考える重要な発信地となっています。



*10

左：コンランの著書『The House Book』（ミッチェル・ビーズリー刊）、1974年 *10
右：バトラーズ・ワーフ界隈のシャッド・テムズ地区にオープンした最初のデザイン・ミュージアム（1989-2016） Courtesy of the Design Museum

Terence Conran:

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY



展覧会名：テレンス・コンラン モダン・ブリテンをデザインする

会場：東京ステーションギャラリー

会期：2024年10月12日(土)～2025年1月5日(日)

休館日：月曜日(ただし10/14、11/4、12/23は開館)、10/15(火)、11/5(火)、12/29(日)～1/1(水)

開館時間：10:00～18:00(金曜日10:00～20:00) ※入館は閉館30分前まで

主催：東京ステーションギャラリー[公益財団法人東日本鉄道文化財団]

企画協力：株式会社コンランショップ・ジャパン、泉川真紀事務所

後援：プリティッシュ・カウンシル

協賛：T&D 保険グループ

ANA FINDS(全日空商事グループ)

森ビル株式会社、株式会社乃村工藝社、リビングデザインセンター OZONE、UDS株式会社、
USM U. シェアラー・ソング株式会社、三井デザインテック株式会社、株式会社インターオフィス

In collaboration with the Design Museum, London and Deyan Sudjic

Special thanks to the Conran family

入館料：一般1,500(1,300)円、高校・大学生1,300(1,100)円、中学生以下無料

* ()内は前売料金[9/1～10/11 オンラインチケットで販売]

* 障がい者手帳等持参の方は200円引き(介添者1名は無料)

* オンラインチケットは【www.e-tix.jp/ejrcf_gallery/】で購入可

* 当日券は当館1階入口でも販売

* 都合により開催内容が変更になることがあります

* 最新情報や関連イベントは美術館ウェブサイトでご案内します

* 展覧会に合わせて新しい書籍の出版や展覧会グッズも販売します

展示構成：SKWAT、加瀬透

巡回先：福岡市美術館 2025年4月19日(土)～6月8日(日)

@terence_conran_exhibition

東京ステーションギャラリー

住所：〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1

交通：JR 東京駅 丸の内北口 改札前

電話：03-3212-2485

WEB: <https://www.ejrcf.or.jp/gallery/>

次回展：生誕120年 宮脇綾子の芸術 見た、切った、貼った
2025年1月25日(土)～3月16日(日)

広報お問い合わせ先：

東京ステーションギャラリー学芸室(羽鳥)

ahatori@ejrcf.or.jp

Tel. 03-3212-2763

広報用ダウンロードシステム

<https://www.artpr.jp/tsg/conran2425>

*1～*10の写真は画像データの貸出をおこなっています

